

会議・打合せ等記録

報告日：平成 31 年 4 月 8 日

名 称	新庁舎整備進捗状況報告会（第 2 回）要約
日 時	平成 31 年 3 月 27 日（水）19 時 00 分～20 時 11 分
場 所	栗野コミュニティセンター 2 階視聴覚室
出 席 者	佐藤市長、福田副市長、水嶋財務部長、篠原庁舎整備推進室長、網担当主査、 黒川主査、井上主任主事 株式会社 佐藤総合計画
内容及び 結果等	<p>1. 開会</p> <p>2. 市長あいさつ</p> <p>3. 出席者紹介</p> <p>4. 進捗状況の報告</p> <p>(質疑応答)</p> <p>・工事 STEP について、これまでの説明と違っており、本館と新館などすべてを一度に壊すとは思わなかった。現庁舎を全部一度に壊してしまうと、1 期棟に職員全員が入り、業務を行うことができるのか疑問である。</p> <p>⇒これまでの説明と同じであるが、現庁舎の解体は一度で済ます予定であり、また、1 期棟のみで職員全員が入ることは可能である。しかし、市民へのサービス低下を招かないよう、支障がないように今後検討していく。</p> <p>・今回説明のあった建物では、「木のまち かぬま」をアピールする建物とは思えず、ごく一般的な建物としか思えない。「木のまち かぬま」をアピールし、かつ利便性を損なわないようにすると、鹿沼産材は、外壁などの外側に使うしかないのではないかと思うがどうか。</p> <p>⇒動画では、執務室内の仕上げがまだ決定していないため真っ白であるが、例えば机の天板等に木を使うことも考えているところである。会議室の壁に木の格子を使うことなどを検討しており、鉄骨とガラスの建物であるが、バランスのとれた「鹿沼らしさ」を検討させていただければと思う。</p> <p>また、市民に分かりやすい部分としては案内板、サインに木のボードを使うとか、今後もみなさんから意見も参考に検討させていただく。</p> <p>・今回、教育委員会がなぜ離れたところに行ってしまったのか。また、労働組合がなぜ新庁舎に入るのか、説明をお願いしたい。</p> <p>⇒基本設計を策定する中で、各部会を開催したところ、教育委員会としては東館にいる 2 課が情報センターに行けば、子育て相談を行っている「こども総合サポートセンター」とも連携しやすくなり、文化ゾーン内に教育委員会の組織をある程度集約したいという結論を受け、今回の措置となった。それを受け、我々としては駐車場が足りないと言われてきたことから、東館を解体し、まずは 30 台分の駐車場を確保することとした。</p>

会議・打合せ等記録

	<p>労働組合については、ほぼ全ての市町で新庁舎に配置されている。労働組合が新庁舎に入る、入らないについてはそこまで疑問視はしていない。</p> <p>・2期工事中は、約5,400㎡程度の面積に500席を入れてしまい、2年間業務を行うことになる。市民サービスの低下を招かないと言えるのか疑問である。</p> <p>⇒全ての建物が完成しているわけではないことから、市民に迷惑をかけないということとはあり得ず、工事期間中は迷惑をおかけすることはあるかもしれない。執務室については、1期工事、2期工事と分けて考えていたことから、できるだけ1期棟側に多く配置する計画となっている。今後、2期工事中に市民サービスの低下を招かないようなレイアウトや対応を検討していく。</p> <p>・新庁舎の建設中に、万一災害があった場合は、避難場所や災害対策本部についてどのように考えているのか。</p> <p>⇒新庁舎における考え方は、防災拠点であり、市長が指示を出す拠点となる。1期工事期間中の対応も、現庁舎があるため同様であり、東日本大震災の時には消防本部に対策本部を作ったような事例もある。また、水の災害については、現庁舎位置は浸水想定区域にも該当しておらず、被災の心配はないことから、現庁舎に災害対策本部を作ることが十分可能である。</p> <p>・約60億円のうち1割でも鹿沼市内の業者に落ちれば経済効果はかなりあるだろう。しかし、この説明にあった建物が市内業者のスキルで出来るのか、JVを組めば可能なのか、コンプライアンスの関係でゼネコンを頼らなければできないとなると、6億円というお金が市外に出てしまう。その点についてどう考えているのか教えてほしい。</p> <p>⇒今年度、第三四半期、9月末までに実施設計作業が終了する。その後、建設工事の発注を進めていくが、議会で市長が答弁したとおり、今のところ総合評価落札方式の導入を予定している。これは金額だけで判断するのではなく、金額とその会社の技術提案、鹿沼市に対する提案を総合的に判断するものである。今回、鹿沼市が最も望む提案としては、「地域への貢献」である。ご質問のあったJVを否定するものではないが、代表業者は実績のある業者が取ることが多い傾向にあるようである。JVを前提としてしまうと、ゼネコンが何社か手を挙げたとしても、ゼネコンとJVを組める規模の業者が少なくボトルネックになってしまい、僅かな競争しか起こらなくなってしまう。僅かな競争しか起こらなければ、鹿沼市が望む提案が出なくなってしまうことも考えられるため、JVと単体の混合入札を国が推進していることもあることから、今回は混合入札で進めたいと考えている。そして、多くの相手から鹿沼市が望む地域貢献、特に市内にどれだけ仕事を落としてくれるのかということの評価項目とできるよう、今後、学識経験者を交えながら発注に向けて議論していく。</p> <p>5. その他</p> <p>6. 閉会</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎整備進捗状況報告会次第 ・資料（基本設計概要、平面図）

会議・打合せ等記録

次回予定	なし		
記録者	井上		
鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱第 2 条に基づく審議会等の公開状況 (該当する審議会等以外の会議・打合せ等については記入不要)			
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	・ 非公開	(公開の場合) 傍聴人数 29 人